

高齢者の交通死亡事故が多発！

昨年の岐阜県下の交通事故死者数は、現行の統計制度を開始した昭和23年以降最少（75人）となりましたが、本年は2月28日時点で18人（前年対比8人増）と多発している状況にあります。そのうち、14人が高齢者で、特に夜間における歩行者や自転車の被害が目立ちます。

大垣警察署管内での発生はないものの、当署管内居住者が関係する交通死亡事故が2件発生しているほか、西濃地区の隣接警察署管内でも発生しています。

交通事故は、地元だけで発生するものではありません。帰宅するまで、気を抜くことなく無事に帰るよう交通安全に努めましょう。

夜間の交通事故防止「笑顔でハ、ハ、ハ」運動

早めのライト・オン！

16:00～20:00は交通事故が最も多く発生する『魔の時間帯』です。日没30分前を目安に、早めのライト点灯で自車の存在を知らせよう心がけましょう。

ハイビームが基本！

交通量の多い市街地などを通行している時や先行車や対向車がいる時を除き、ハイビームにして歩行者や自転車、障害物を早く発見するようにしましょう。

反射材の装着！

運転者に自分の存在を早く知らせるため、歩行者や自転車利用者は明るい色の服装と反射材を装着しましょう。

防災家族会議を開きましょう

万一に備え、家族でシミュレーションを

いつ起こるかわからない万一の事態に備え、定期的に家族全員で次のことを話し合っておきましょう。

話し合っておくべきこと

1. 家族全員が自宅にいるとき、大地震がきたらどうするか

それぞれの役割に応じてすばやい行動ができるようにとっさの場合の役割分担を決めておきます。

2. 避難場所への道順を確認

指定避難場所や第2避難場所の位置を確認しておきましょう。

3. 家族が離ればなれになったとき、どうするか

日中に地震が起きた場合、家族それぞれが勤務先や学校、外出先などにおいて、バラバラになる可能性があります。さまざまな想定で、対処の仕方を話し合っておきましょう。

決めておくこと

連絡方法・連絡場所（いずれも複数）

遠く離れた親戚や知人宅をあらかじめ中継点に決めておき、電話で家族の安否確認、避難場所の連絡ができるよう工夫します。

最終的な集合場所

大地震の直後は、しばらく電話が不通になることもあります。連絡がつかない場合も想定し、状況に応じて、互いの避難場所と最終的な集合場所を決めておきます。

自宅に残るお年寄りなどの安全対策

居室は1階よりも2階のほうが安全で、寝室にはなるべく背の高い家具を置かないようにしましょう。

